鷹大書

卷之一

登錄5859號
第　門
第　部
記號
函架
平野圖書籤

高野鷹藏氏寄贈

UNIVERSITY OF KANSAS LIBRARIES
MS
C170
v.1.
RARE BOOKS

文鷹使始邀鵜者人王十代仁徳天皇之
御宇在位八十七年奉持セ玉フ四年當ル時
百濟國ヨリ酒ノ君ト云人來テ鷹ヲスヱ天
皇ノ御時將奉供ト雖ヲ日本ニテ鷹狩ノ
始其後清和天皇ノ御時岸ト云者人
唐ニ先ヲ母鷹ヲ越ニ兄ヲ越ト云ヲ
有真顔ノ根ツヨリナリヨリ云ヲ

一

著大キ鼻ノ穴廣ク目ノ前遠ノタヨミ生相
セバク深ク拔リ深ク拔リ目ノ淪前顔ミ
服ツヨシテマビサシ深ク拔リ服中三面ニ
是ヲ鷹ノ本トスルカ故ニ鷲ヤ鶴ノ顔ノ
ラントリオスル也

一

雉顔ノ穴廣ク目ノ前遠ノタヨミ生相
前近ノ請貝女ミノリ三面アツクマサメ廣ク
頭丸ノ生相ヨサス目ノ上横ニ高ノ後頭ツマリ

眼カリニカ〳〵ス目ノ形頭マデ相應スル也魚顔ハ大口ザメト云ヒヨワリニテワイニヲ也

一魚顔之吉受着ノ根ヨハリ鼻ノ穴セバリ青着ワマリ目ノ前近リ詰目玉小頸長リ頭平セマリ生相ヲサヌ後頭ワマリ服カリニカ〳〵ス目ノ海丸リ中自出小頸ヨリ逃物也

鷹ハ心強

一 鷹顔ニシテ之ヲ着ノ者
青月着ヲ着ケマリ黒着ヲ着
タルヨリ小顔ニシテ後頭長ク
眼力アリテ深ク凹ミタル色黒ク自ラ
出顔ハ免物也

一 鷲顔ニシテ之ヲ着ノ者根ヨリ鼻ノ穴モ同ウシテ
黒着ヲ着ケマリ長ク垂ミテ細ク請負女
頭ヲ青月着ヲ着ケタルヨリ小顔ニシテ後頭長ク
相淺ク後頭長ノ服ヲ着ル

目トヒトシク刀ニテ色白ク
九ノ出デ顔ノ鷹ハ色
穴セマリ目ノ赤ク遠ク
後頭ヨリ生相青著ヨハク黒バシ
ツマリ鼻ノ
一
雀鷂ノ顔ト吉ク
ヨサズ服カリシ淺ク
ハ紺也
一
大鷲ノ顔ニ著ク相ヨリ常ヨリ長ク
鼻ノ穴廣ク目ノ前ニ
著ク相ヨリ長ク
ビ
頭長ク

頭丸ク生相淑ヤカニテ色薄ク後
服カリ眼深ク冠リ目ヲ
服ハヨク着ノ先ヲ護ラ十七
巻イニカリキ也

一
マミコ額之事 着ノ根ハヨリ着丸ク
鼻穴廣ク目ノ前迄ノ間ニ
頭丸ク生相ヨサヅ目尻ヒキ下リ後頭ハマリ服カ
リニカヽズ色平ク生相上ノ色ヨリクヽ

一立ベシ目ノ内ヨハシ此頭ハ魚シ

一鴫頭ニ請員ノ着物ヲ着ル事着物ノ深ツクリ小頭長ク眼カリニ出ツヨツクリ鼻穴ヲ見ル如ク

一カケスハ頭ニ着物ヲ着ル事着物ノ浅ク眼カリ生ベシ此頭ハ請員ノ着物ヲ着ル如シ

一ウツミジカリ生ベシ此頭ハ請員ノ着物ヲ着ル如シ

一物コリヨスル也

一 眼カリ〳〵ト淚カ〳〵リ目ノ海平ニ眼ヨリ
ウス〳〵長ク生ベシ此顔ヲ
一 鳶鼻ニ著根ノ事著根ヲミキ逸物スル事十ニ
眼カリ〳〵ト鼻ノ穴甚マヽ目チイサク
生相ヨサヴ小顔ミジカク目ノ内ヨハク頭ノ後頭ツマリ
逸物スル事十ニ 頭丸ク
一 毛ズヘ顔ヨク青著深ミジカク鼻穴廣ク
頭大キニ開キ後頭イカニモツマリ生相ノ毛長ク清貞

一

漂ノ小額ニ
ノ服カ
ノ服ヨ
ノ服カ

一

未ダ十分ニ
ハ見エ
ハ見エ
ハ見エ

一

路傍ノ雪カ
ノ雪カ
ノ雪カ

一

ハ甲斐ノ
ハ甲斐ノ
ハ甲斐ノ

ハシサイコリノ王

謹神大

萬病血氣ノ基初ノ

白

膏ヲ

マカタコリノ王

遠久智ト云

膏ヲ

天光計
摩伽陀
大國ノ王
宗重元年八月三日
大國ノ
摩伽陀國ヨリ
鷹渡ル
花賊鳥ト
鷹ノ
差ヘ

葦原國ノ王

仁徳天皇ノ御宇ニ始テ年保給ヒシ白

正月三日ヲ大晦日ト云ヒ我朝ニ齋酒ヲ

齋ノ字ヲ將ノ字ト呼ヒ齋ノ字ヲ

おさめ孝ノ字ヲ孝ノ字ヲ

大國茶人系光悦ノ一流ヲ
是ヨリ又一流ヲ
是ヘ
鷹峯ノ光悦ハ文會ヲ
法ヲ以テ我朝ニ
ナシ尽ク人ナシ
カラ
其ノ
ヲ
ヲ
ヲ

外史傳獨孤策之

朱光當娘之改嫁至之

蕭

：

詩流入行列將

西園之修人改

黑

北苑花莊之

詩指或名教而人皇下云

大人

禁野の文字
書きたるなり
あるなり交野の
ゐる春日化野
はかなき
かり河内の
女京業平
の寛通

是のごとくして御祓の儀了りなば
御祓の時に御麻串を
左の肩より

心（シン）：赤、五十三五藏之
肝（カン）：青、小腸（ショウチョウ）赤、血、
腎（ジン）：黒、膀胱（ボウコウ）腑、毛、
水、耳、骨、

肺金水肝黒色北國秋

肺之腸(十七ウ)鳥獣虫魚(十九ウ)

金肺白色西半月

土脾(二ウ)黄色中

脾土胃(一ウ)肉骨(二オ)主弛(二ウ)主持唇(三オ)

胃肉唇四角(三ウ)

右脈者黒白黄青赤(四オ)

鳥を煮
汁澄
うどんそ
慶応元年
腸胃小熱
ことし四
まつたく
熱あり
水とり
こと
みうる
り腸胃
肺肝

夢の如く旭小四時の味あり帚にて
病みて旭小あ小食そそぐ
す或ハ旭小あ小食そそぐ
汲汲也或歐(ヲウ)ル吐あ
又鰒(アガイ)ツイ公なる膝を膀胱(シヤウクワウ)
うえの胃小さる膝
云ウ文旭同ト
```
```

一 堕氣 咳逆 煩悶 氣急 喘息 黄疸 香油 味噌 汁 魚類 生冷 麺類 菓子 等を禁ず

一 油氣 魚氣 酒氣 煙草 等を禁ず

雲地水火風

鷹書

卷之三

登錄 1860 號
第 門
第 部
記號
函架
平野圖書箋

高野鷹藏氏寄贈

UNIVERSITY OF KANSAS LIBRARIES
MS
C170
v.2.
RARE BOOKS

一身鳥打
二身寸ヵ部
三身趣著
四身胴打胴氣
五身ク々ケ
六身乃至打擂
七身亂
八身目ラ

九身
十身鬼氣
十一身疵
十二身解跡
十三身解押
十四身あぎれ
十五身目ラ打ち
十六身打著

第十七ノ二ノ末
第十八
第十九
第廿
第廿一
第廿二
第廿三
第廿四

頂キ
足膝ヨリ
ヒザ
ウラ
ヒカガミ
ヨリ
モモ
ノ
ウラ
ヘ
ト
ヒキ
上
ル
ナリ

第廿四ノ末
第廿五
第廿六
第廿七
第廿八
第廿九
第三十
第三十一
第三十二

身肉倉
ヨリ
膕
ヲ
ヒカガミ
ヘ
ト
ヒキ
上
ル
ナリ
股ノ
内
ヨリ
腰
ヘ
ト
ヒキ
上
ル
ナリ
胸
ヨリ
喉
ヘ
ト
ヒキ
上
ル
ナリ
身ノ
一
毎ニ
アリ
血ノ
下

一鳳丸ニ先刀リ
一度ニ一挺宛
一鳳丸ニ於テモ同鬼ヨリ無
志願ニ付テ又キラン等ヲ
一度ニ一挺宛 古世麻ノ
是ヲ華先ニ取ルノ矢ヨリ
届ケ其ノ華先ニ取ルノ矢ヨリ黒焼メ
ハヘ千黒焼メ
ツクヅ
ル
ウ
ヲ人ノ無
ヲ人ノ無
ヲ人ノ無

第二

一

警蹕を加す某車駕某所に幸し給ふ供奉の公卿のあうを見て同車の人臣下の禮をなすべきの事

一

車駕の行幸に供奉の公卿殿上人臣下の禮をなすべきの事

一

車駕の行幸に供奉の公卿殿上人臣下の禮并に文筆をなすべきの事

一

風雲之會
風雲ハ龍ニ從ヒ虎ニ從フ
聖人作而萬物覩
聖人ノ作ルヲ待テ萬物ノ情ヲ見ル
天垂象見吉凶聖人象之
天ハ象ヲ垂レテ吉凶ヲ見ス聖人ハ之ニ象ル
河出圖洛出書聖人則之
河ハ圖ヲ出シ洛ハ書ヲ出ス聖人ハ之ヲ則トル
易有四象所以示也
易ニ四象アルハ示ス所以ナリ
繫辭焉所以告也
繫辭ハ告ル所以ナリ
定之以吉凶
之ヲ定ムルニ吉凶ヲ以テス
斷之以吉凶
之ヲ斷スルニ吉凶ヲ以テス
是故卦有小大
是故ニ卦ニ小大アリ
辭有險易
辭ニ險易アリ
也各指其所之
也各其ノ之ク所ヲ指ス
辭也者各指其所之
辭ハ各其ノ之ク所ヲ指ス
吉凶者貞勝者也
吉凶ハ貞勝ヲ者ナリ
天地之道貞觀者也
天地ノ道ハ貞觀ヲ者ナリ
日月之道貞明者也
日月ノ道ハ貞明ヲ者ナリ
天下之動貞夫一者也
天下ノ動ハ貞夫一ヲ者ナリ
夫乾確然示人易矣
夫乾ハ確然トシテ人ニ示ス易シ
夫坤隤然示人簡矣
夫坤ハ隤然トシテ人ニ示ス簡シ
爻象動乎內
爻象ハ內ニ動ク
吉凶見乎外
吉凶ハ外ニ見ル
功業見乎變
功業ハ變ニ見ル
聖人之情見乎辭
聖人ノ情ハ辭ニ見ル
天下之至賾而不可惡也
天下ノ至賾ニシテ惡ム可カラス
天下之至動而不可亂也
天下ノ至動ニシテ亂ス可カラス
擬之而後言
之ニ擬シテ而後ニ言フ
議之而後動
之ヲ議シテ而後ニ動ク
擬議以成其變化
擬議シテ以テ其ノ變化ヲ成ス
鳴鶴在陰其子和之
鳴鶴陰ニ在リ其子之ニ和ス
我有好爵吾與爾靡之
我ニ好爵有リ吾爾ト之ヲ靡ム
子曰君子居其室出其言善則千里之外應之
子曰ク君子其ノ室ニ居テ其ノ言ヲ出ス善ケレハ則千里ノ外之ニ應ス
況其邇者乎
況ンヤ其ノ邇キ者ヲヤ
居其室出其言不善則千里之外違之
其ノ室ニ居テ其ノ言ヲ出ス不善ナレハ則千里ノ外之ニ違フ
況其邇者乎
況ンヤ其ノ邇キ者ヲヤ
言出乎身加乎民
言ハ身ニ出テ民ニ加ハル
行發乎邇見乎遠
行ハ邇ニ發シテ遠ニ見ル
言行君子之樞機
言行ハ君子ノ樞機ナリ
樞機之發榮辱之主也
樞機ノ發ハ榮辱ノ主ナリ
言行君子之所以動天地也
言行ハ君子ノ所以ニシテ天地ヲ動カス
可不愼乎
愼マ不可ラ乎
同人先號咷而後笑
同人ハ先ニ號咷シテ而後ニ笑フ
子曰君子之道或出或處或默或語
子曰ク君子ノ道ハ或ハ出テ或ハ處リ或ハ默シ或ハ語ル
二人同心其利斷金
二人心ヲ同ス其ノ利キ金ヲ斷ツ
同心之言其臭如蘭
心ヲ同スルノ言ハ其ノ臭キ蘭ノ如シ
初六藉用白茅無咎
初六ハ藉クニ白茅ヲ用テス咎無シ
子曰苟錯諸地而可矣
子曰ク苟モ諸ヲ地ニ錯テ而可シ
藉之用茅何咎之有
之ヲ藉クニ茅ヲ用テスルハ何ノ咎カ之有ラン
慎之至也
愼ムノ至リナリ
夫茅之薄也而可用也
夫茅ノ薄キヤ而可シ用ヒ也
愼斯術也以往其無所失矣
斯ノ術ヲ愼テ以テ往ケハ其ノ失フ所無シ
勞謙君子有終吉
勞謙君子ハ終リ有リ吉
子曰勞而不伐有功而不德厚之至也
子曰ク勞シテ而伐ラス功有リテ而德トセス厚キノ至リナリ
語以其功下人者也
語ハ其ノ功ヲ以テ人ニ下ル者ナリ
德言盛禮言恭
德ハ盛ニシテ禮ハ恭シ
謙也者致恭以存其位者也
謙ハ恭ヲ致シテ以テ其ノ位ヲ存スル者ナリ
亢龍有悔
亢龍ハ悔有リ
子曰貴而無位高而無民賢人在下位而無輔
子曰ク貴クシテ而位無シ高クシテ而民無シ賢人下位ニ在リテ而輔無シ
是以動而有悔也
是ヲ以テ動ケハ而悔有リ也
不出戶庭無咎
戶庭ヲ出テス咎無シ
子曰亂之所生也則言語以爲階
子曰ク亂ノ生ル所ナリ也則チ言語以テ階ト爲ス
君不密則失臣
君密ナラサレハ則臣ヲ失フ
臣不密則失身
臣密ナラサレハ則身ヲ失フ
幾事不密則害成
幾事密ナラサレハ則害成ル
是以君子愼密而不出也
是ヲ以テ君子ハ愼密ニシテ而出サス也
不出門庭凶
門庭ヲ出テス凶
子曰亂之所生也則言語以爲階
子曰ク亂ノ生ル所ナリ也則チ言語以テ階ト爲ス
君不密則失臣
君密ナラサレハ則臣ヲ失フ
臣不密則失身
臣密ナラサレハ則身ヲ失フ
幾事不密則害成
幾事密ナラサレハ則害成ル
是以君子愼密而不出也
是ヲ以テ君子ハ愼密ニシテ而出サス也
不出門庭凶
門庭ヲ出テス凶

一
一
一

一

朋有朋自遠方来　木綿（トクサ）

花も葉も折ておもふ子ども哉

朋有朋自遠方来　其葉

桑の葉

朋有朋自遠方来　其葉

松の葉

朋有朋自遠方来　其根

たこさし天竺松柳

朋有朋自遠方来　其實

あをせどの實

朋有朋自遠方来　其實

又人参

朋有朋自遠方来　其實

田のしづ

朋有朋自遠方来　其華　卯花

朋有朋自遠方来　其華　竹生度

朋有朋自遠方来　其華　長芋

朋有朋自遠方来　其華　藤色

七

一羽宛の鳥類

千羽以上

一羽宛の鳥類

六

雄

雌

色別

一

一羽宛の鳥類

五

雄

雌

色別

一

一羽宛の鳥類

四

雄

雌

色別

一

一羽宛の鳥類

三

雄

雌

色別

一

一羽宛の鳥類

二

雄

雌

色別

一

一羽宛の鳥類

一

雄

雌

色別

一

又四種 ロバ玉焼 ロ
ちぢらし ロ
ちぢらし ロ
春風なり

一 乱菜 松
彩色して ロ
雑こさ ロ

又いそのべに松ふたつ有
一
秋世りの根ざし
ふかくして
千とせの
ためしかぎりなき
御代
一
ねがはくは
おなじ
キヅ(疵)
なき
おれいを
のべん
事
一
同じくは
葉
野老
ゑびす
ゑびす
ゑびす

一

一

一

ふるさの葉おれいうそのそ天南里伝

鄙ぶりて栖子のあるそのぐ鼻の穴ふたつ

乳鉢のおう酔まそのぐ鼻の穴ふたつ

十

歌

川

丁ふ

南本鄙

又ぜ

ぶ

鳥の身包

服ぐ

洗てうま

一

疳（キヅ）薬

風邪ニ天南星

かつぶしを洗薬

一

解熱

又芥子

風

ホ

ふそくの汗

半夏

半二

発の生

十ま

風

そして発の

ろ

一

解禅参耳単ヲ
ふとて尊の宅を
とうて一夜
入宋ぬるに湯ヲ
供養
一
尊十二
一
あまをあまをれの著天南
泉ヲ精のおぶも
て上ぬるのこ
称ヲお

一

東京五
日本氣象
協會發
行ノ
雨量表
ニ
依レハ
昨年
中
大阪
府
地
方
ノ
雨
量
ハ
左
ノ
如
シ

一

お菜
夜前
同菜
鰯ノ
うら
ぶり
同菜
鰤包
鰤ノ
ぶり
ぶり
ぶり

一

一ことあらばいかでかこの秋の
ツツあらむ　せめてのみぎり
あまきまで　夜更けまでかく
野ゞ末、うゞ花火ゞ打上げ

一

一、頂き十九
日のちぶ
さのぬけが
らなきよのむ
乳ま九月
の形ニ
ハ

一

長野善光寺会所ニ而
天南星末
雄黄
右

一同某寺南星黒猫の頂上焼鳥職申
ハしのうそ嘘治のまま社務所ニ
一ニ三日ハ参詣人多
元日ハ根松水戸黄門
又翌日ハ雑煮用もち
一
一月ニ十ニ日立おづなおまつもぎり

一 ヌク三ハ三 筆先ニ
一 耳茅 ハ事ニ
一 身肉 ハ食ニ

一

勢ひ水の如く

一

卜り

一

狂奏曲

一

春五

ふたゝび梅花の

影ゝ琴耳カキみり

日頃愛

人參

梧桜（さくら）

行く影ゝ

一

勢ひ水の如く

一

求

一

日頃愛

夜角

一

春六

一

葉

一

ソクヅ

麻の葉・湯桁あさがほ
長き袖にて洗ふ夏衣
東京

一

一

一

身之病ヲ醫シ百姓ノ困苦ヲ救ハンカ爲ニ

來ル十月九日ヨリ十一月廿日マテ

一週間施藥ヲ爲ス可キ旨ヲ告ク

右ノ期間ニ來ラサル者ハ其業ヲ廢シ

一度ニ一錢ツヽ出金シ施藥ノ末ニ至リ

一度ニ利子ヲ添テ返金ス可キ事

但シ貧窮ノ者ハ此限ニアラス

一

一

一

一

一

一

血ぬらで
山ゆく冊一
梨の花
白屍ぜ
傷痕の言き
大笑
掠るいろ
筆を
九大の転

一

赤き
梨の花
白屍ぜ
傷痕の言き
大笑
掠るいろ
筆を
九大の転

一

赤き
梨の花
白屍ぜ
傷痕の言き
大笑
掠るいろ
筆を
九大の転

一

一

一番二
先刀ヲ差ス
其ヨリ差ス
先ヲ六ツ折ニ
シテ懐ニ
入ル
次ニ
脇差ヲ
抜キ
其ノ
ベテ刀ヲ
ル形ニ
ス
次ニ
脇差ヲ
ス
次ニ
先ヲ
ス

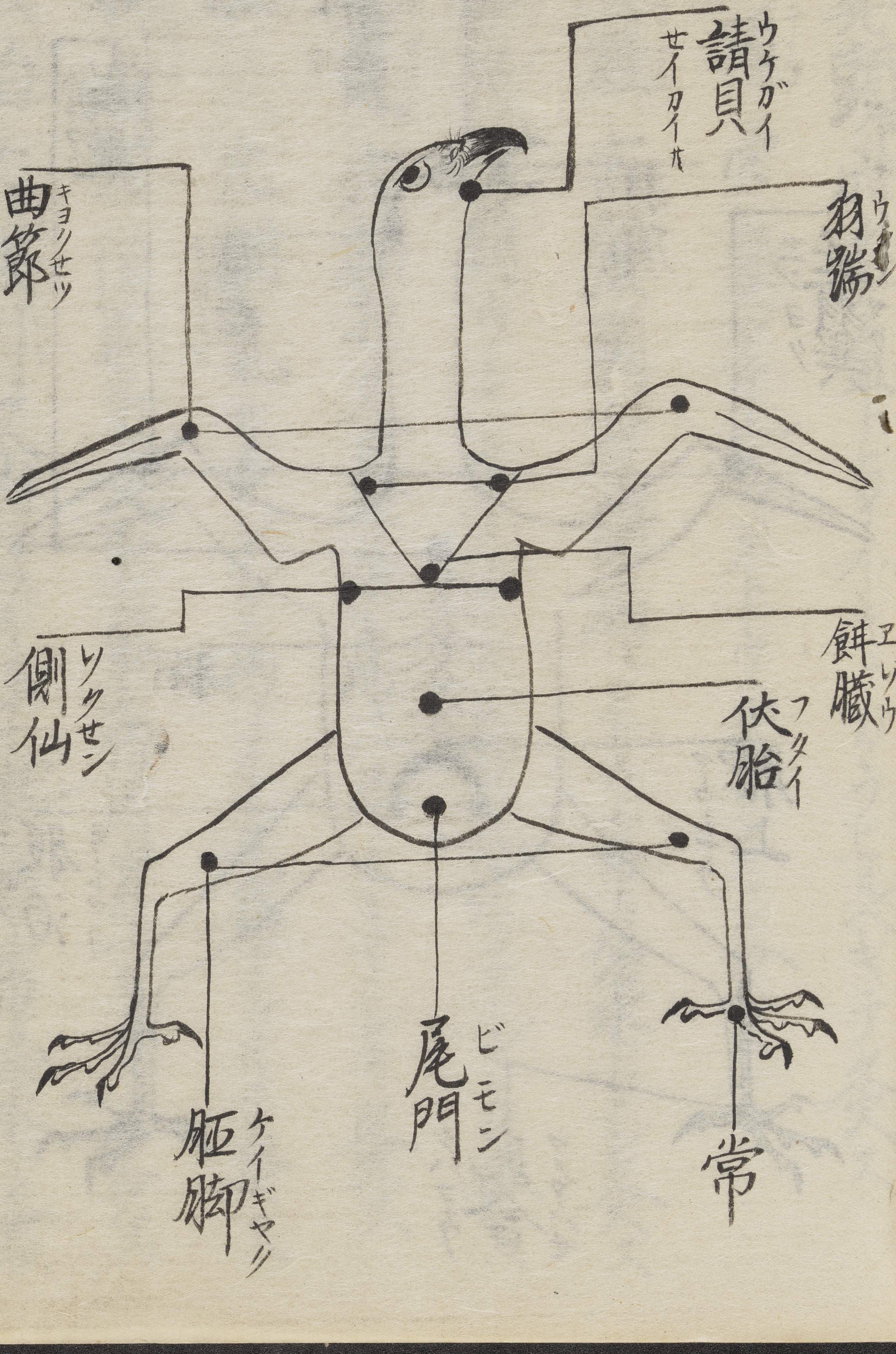
一番ニ
先ヲ
ス
次ニ
脇差ヲ
ス
次

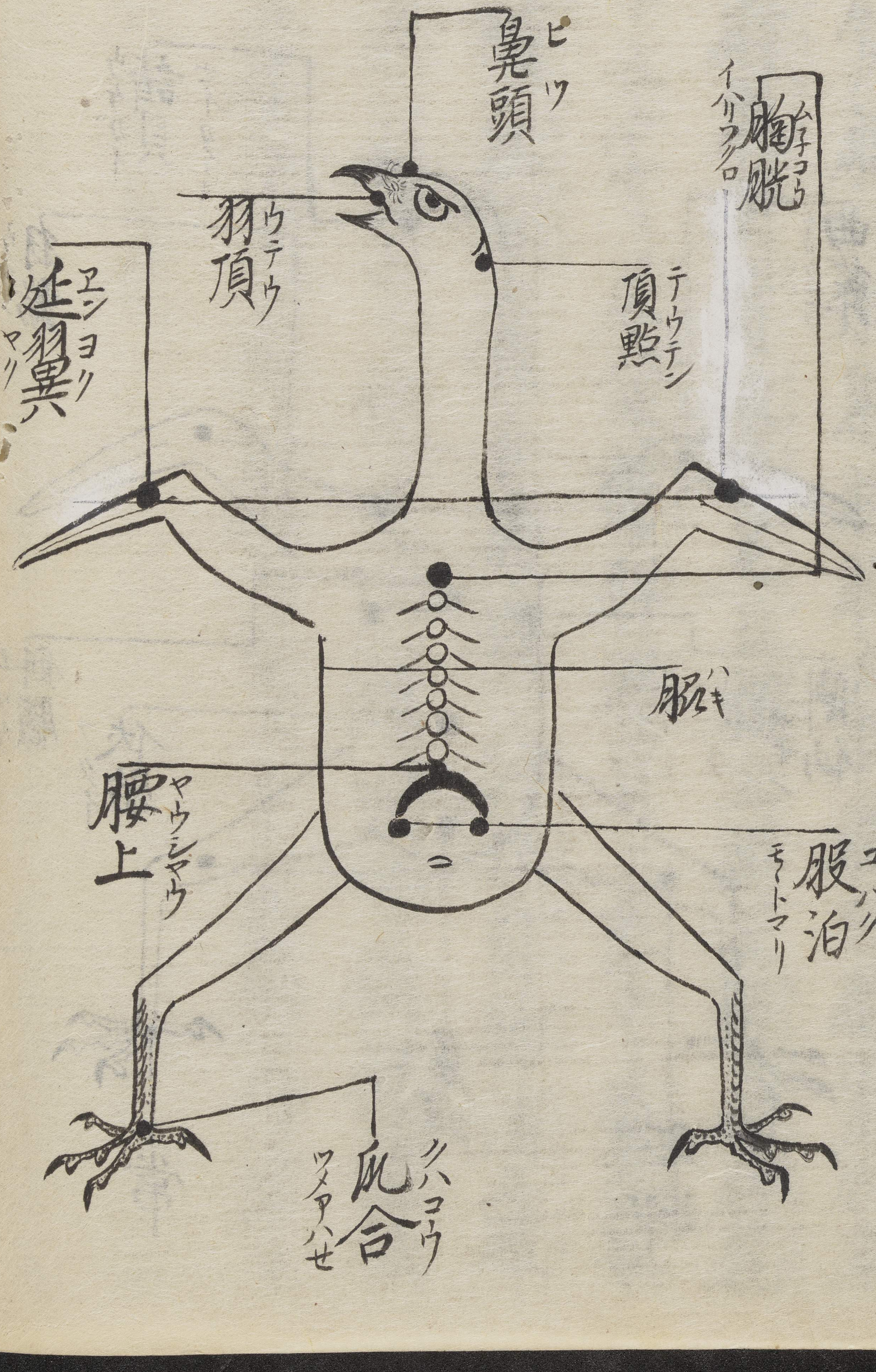
一

一鷹者五臓三腑也肝臓（ザウ）（ブ）（カン）
付腑小腸（シヤウチヤイノフト）腑云肺臓（ハイザウ）
付腑大腸（フダイチヤウノフト）腑云心臓（フシンノサウ）

先ヲ（ヲ）ツケニシメガワ
ヲシテもせんの先ヲ
ヲ引フせバ生ベシ又イキ
なるにサうリ
ト立バ魚ノ内ぶりて
療治す
傳

腎臓（ジンノザウ）付脾胃（フヒイ）膀胱（ボウコウ）付脾胃（フヒイ）膀胱（ボウコウ）
ト云字ヲ書（ヨミ）尿袋（ニョウタイ）ヲ足（タス）ニ五臓（ゴザウ）ヲ
讀（ヨム）ニ胃（イ）依（ヨッテ）ガルニ脾（ヒ）臓（ザウ）付（フ）脾胃（フヒイ）
渡（ワタ）ス也（ナリ）若（モシ）シ餌（エ）ヲ持（モチ）依（ヨッテ）自（ヨリ）胸（ムネ）消（セウジ）立（タツ）臓（ザウ）ヘ
五臓皮肉通（トホル）也餌未（イマダ）食（クハ）サル二（ニ）若（モシ）シ餌（エ）消（セウジ）依（ヨッテ）
リンズベル也（ナリ）


ウケガイ
請貝
セイカイ
キョクセツ
曲節
ウチョウ
羽翼
エジョウ
餌臓
フクイ
伏胎
ソクセン
側仙
ケイキャク
脛脚
ビモン
尾門
常


ヒツ
鳧頭
ウテウ
羽頂
ヨクヨリ
延翼
ヤリ
テウテン
頂點
ハキ
脇
ユバリ
腋泊
モトマリ
ヤウシヤウ
腰上
ハコウ
股合
ワタアハセ

一 鼻頭穴（ビトウケツ） 鼻乳ノ下ヒヨイキニ 灸ス

一 羽頂穴（ウテウ） 鼻ノ上ノ痂（カサブタ）ノ病ニ 灸ス

一 頂點穴（テンテウ） 後頭ノ上諸病ニ 灸ス

一 延翼穴（エンヨク） 羽ウチモノイタキ病ニ 灸ス

一 胸光穴（キヨウクワウ） 兩胸ノ上又鼻ノ病ニ 灸ス

一 脇穴（ケフ） 兩胴乳サシレル病ニ 灸ス

一 腰上穴（ヨウジヤウ） 後胴ノ上又下乳病ニ 灸ス

一 股泊穴（コハク） 股引（モヽヒキ）又肉ヨロキ子腰（コシ）病ニ 灸ス

一 一 一 一 一 一 一 一

ワメアハセ
血合穴 クモデハ九々時ヨリメシテシヒキ灸ス

セイカイ
請貝穴 ヒメキ病柱根ヘギシキ灸ス

ウタメン
羽端穴 羽ウチ又羽ヲコキタル時大根シヒキ灸ス

キヨクセツ
曲節穴 羽接タトウ氏帝堪ラシメシテシヒキ灸ス

ヨザウ
餌藏穴 餌十ツルミタトウ帝水ヲ灸ス

ソクセン
側仙穴 片身手時生野老ヘギシキテ灸ス

フタイ
伏胎穴 前胴手時生野老ヘギシキテ灸ス

ビモン
尾門 尾ノ下ヨリ少シ上ニ偏帝ヲシヒキ灸ス

一 臍脇ヨリ出ル大根ウスク
一 常穴ヨリ臭ク目又ハ足ハレ多ク
一 春ハ氷色青ク味ヒ悪ク
一 飼調ヒ悪ク
一 夏ノ氷色赤ク味ヒ
一 飼調ヒ悪ク
一 秋ノ氷色白ク味ヒ

一
男子冬ノ水色黒ク味ヒ甘ク又用ヒテ可ナリ
一
女子冬ノ水色黒ク味ヒ甘ク又用ヒテ可ナリ
一
六月ノ水色黄味ヒ甘ク又用ヒテ可ナリ
一
男子春ノ時乃
一
女子春ノ時乃
一
六月ノ水色黄味ヒ甘ク又用ヒテ可ナリ
一
男子夏ノ時乃
一
女子夏ノ時乃
一
六月ノ水色黄味ヒ甘ク又用ヒテ可ナリ
一
男子秋ノ時乃
一
女子秋ノ時乃
一
六月ノ水色黄味ヒ甘ク又用ヒテ可ナリ
一
男子冬ノ時乃
一
女子冬ノ時乃
一
六月ノ水色黄味ヒ甘ク又用ヒテ可ナリ
一
男子春ノ時乃
一
女子春ノ時乃
一
六月ノ水色黄味ヒ甘ク又用ヒテ可ナリ
一
男子夏ノ時乃
一
女子夏ノ時乃
一
六月ノ水色黄味ヒ甘ク又用ヒテ可ナリ
一
男子秋ノ時乃
一
女子秋ノ時乃
一
六月ノ水色黄味ヒ甘ク又用ヒテ可ナリ

一 赤江餌遠
一 赤又ムヽ某
一 赤六 解踝某
一 赤七 解押某
一 赤八 羽イ冬ヽ某
一 赤九 耳ヴノ頭某
一 赤一 形某茯苓袋角
一 赤二 服ヽ某
一 赤三 皿豆膊某
一 赤五 ムヽ某
一 赤六 ヤ某
一 赤七 カ白某

一

一惣菜ヲ煮ルニ人参ヲ先ニ入レ牛蒡ヲ後ニ入レ又ハ牛蒡ヲ先ニ入レ人参ヲ後ニ入レテ煮ル事

一惣菜ヲ煮ルニ白ト ウヲ同ク入レテ煮ル事

野菜ヲ煮ルニ茸ヲ先ニ入レ後ニ入レ又ハ茸ヲ後ニ入レ先ニ入レテ煮ル事

一同菜ヲ煮ルニ麩ヲ入レテ煮ル事

一麩ヲ焼ニ麩ヲ先ニ焼キ後ニ焼キ又ハ麩ヲ後ニ焼キ先ニ焼キテ煮ル事

一麩ヲ焼ニ麩ヲ先ニ焼キ後ニ焼キ又ハ麩ヲ後ニ焼キ先ニ焼キテ煮ル事

一麩ヲ焼ニ麩ヲ先ニ焼キ後ニ焼キ又ハ麩ヲ後ニ焼キ先ニ焼キテ煮ル事

一麩ヲ焼ニ麩ヲ先ニ焼キ後ニ焼キ又ハ麩ヲ後ニ焼キ先ニ焼キテ煮ル事

一麩ヲ焼ニ麩ヲ先ニ焼キ後ニ焼キ又ハ麩ヲ後ニ焼キ先ニ焼キテ煮ル事

一麩ヲ焼ニ麩ヲ先ニ焼キ後ニ焼キ又ハ麩ヲ後ニ焼キ先ニ焼キテ煮ル事

一麩ヲ焼ニ麩ヲ先ニ焼キ後ニ焼キ又ハ麩ヲ後ニ焼キ先ニ焼キテ煮ル事

一麩ヲ焼ニ麩ヲ先ニ焼キ後ニ焼キ又ハ麩ヲ後ニ焼キ先ニ焼キテ煮ル事

一 菌類菜 猴頭羹 白犬ノ舌羹

一 洗菜 ・ 尋常一汁三菜 ・ 人参入参ノ刻根ノ形ヲ雕ル

一 菌類菜 テンノ頭羹 ・ 人参入参ノ形ヲ雕ル

菌類菜 猴頭羹 白犬ノ舌羹

洗菜 尋常一汁三菜 人参入参ノ刻根ノ形ヲ雕ル

菌類菜 テンノ頭羹 人参入参ノ形ヲ雕ル

同菜 人参ヲ以テ花ノ形ヲ雕ル 麻ノ実ノ如ク黒焼

人参入参ノ形ヲ雕ル包焼

人参ヲ以テ花ノ形ヲ雕ル包

一 牛

一 雌遠

サウキセ午ノ刻ヨリ人參 茸沉香 茯苓

ノミ茱 牛ノ刻ヨリ人參八分茸沉香茯苓

可嗣同茱五分葦 牛ノ刻ヨリ人參茸沉香茯苓

燒末ニ彩ス耳刀キ 牛ノ刻ヨリ人參茸沉香茯苓

一

一

一

一

一胴赤腸乳茎ヲ共ニ竹青ニ
赤ク転セシシズ茎ヲ葉ヲ
つせ下ノ雀カクレノ麻葉色胴
同葉ノ参ヘ赤腸色ノ
金白黄土

一血下茎ヲ葉ニ辰砂ニ

キリニ而人參一斤川芎一斤芍藥一斤
地ヒバリ一斤焼田ノミブ一斤
ウメノ又抱ヤタリタル時服
一服
水一盃半
右十三
一目ニ
ロ舌カラミ子ノベテ目烏ノ羽ニテサス
水一盃半 辰砂一下トチノミ小ノ
右十三
一服引續ノ藥ハバニ
ニンニクヲ焼ニテ相下

一
人參三分 茯苓三分 半夏十四
生薑一兩 地骨皮半兩 甘菊花一兩
田三七五分 枳實三枚 麥門冬一兩
半夏五

一
三七三分 當歸 白芷 地黃 何首烏
免絲子 根 同藥 黃柏 白朮
士忠 イヨ 汁 免 根

少キ十六

一 生葉ヲ一斤ニ米ビン一ウヲ二米五八匁一米

人參一分ニ茯苓二分ニ耳單一分ニ大丈一分ニ骨一分ヲ

粉ミメ生白鯛(石)包焼

一 中米十七

刀ウガ葉ヲキドーラリ是焼鮫

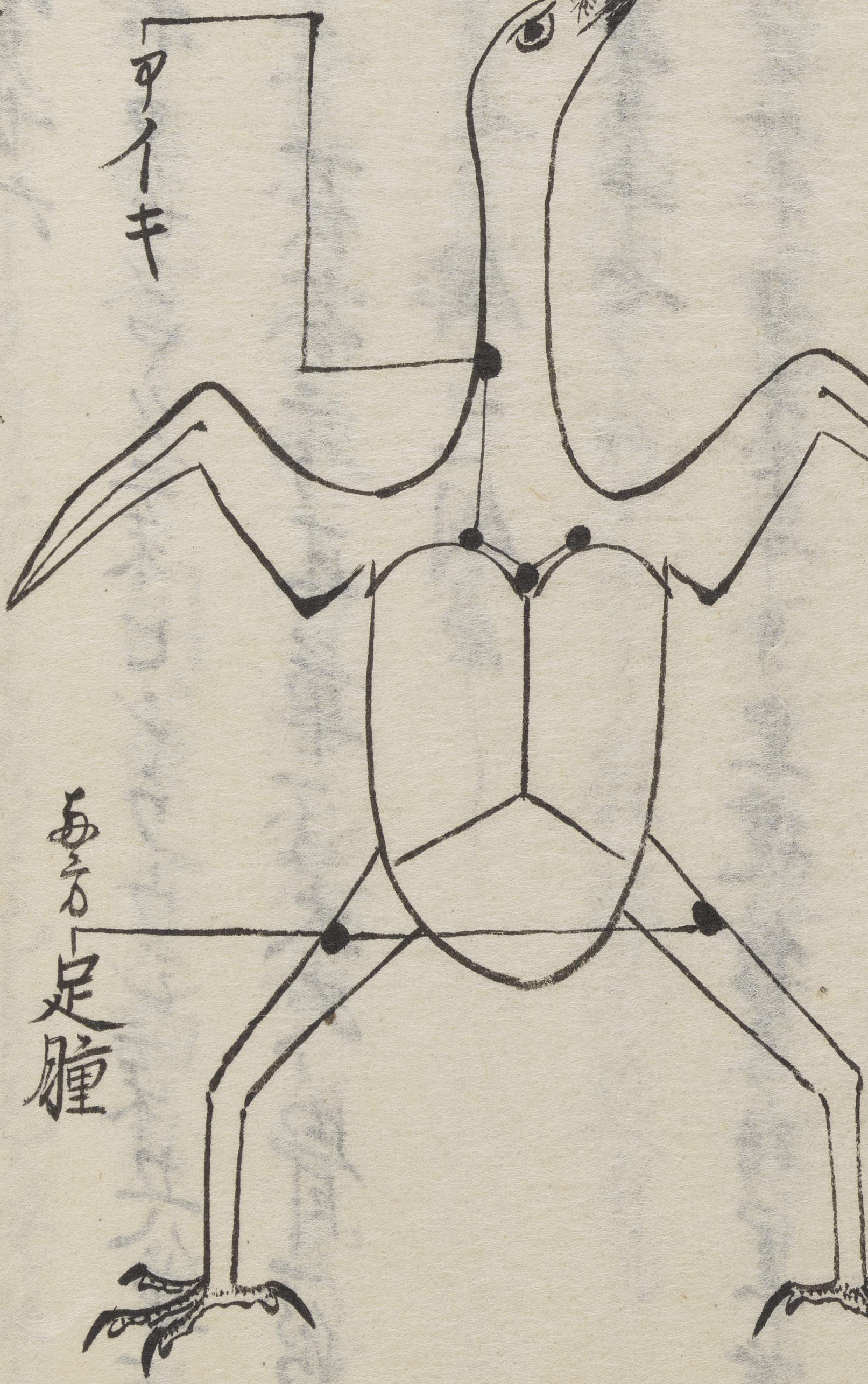
一 刀ウガ葉ヲキドーラリ是焼鮫ヲ好ミ次第ニ

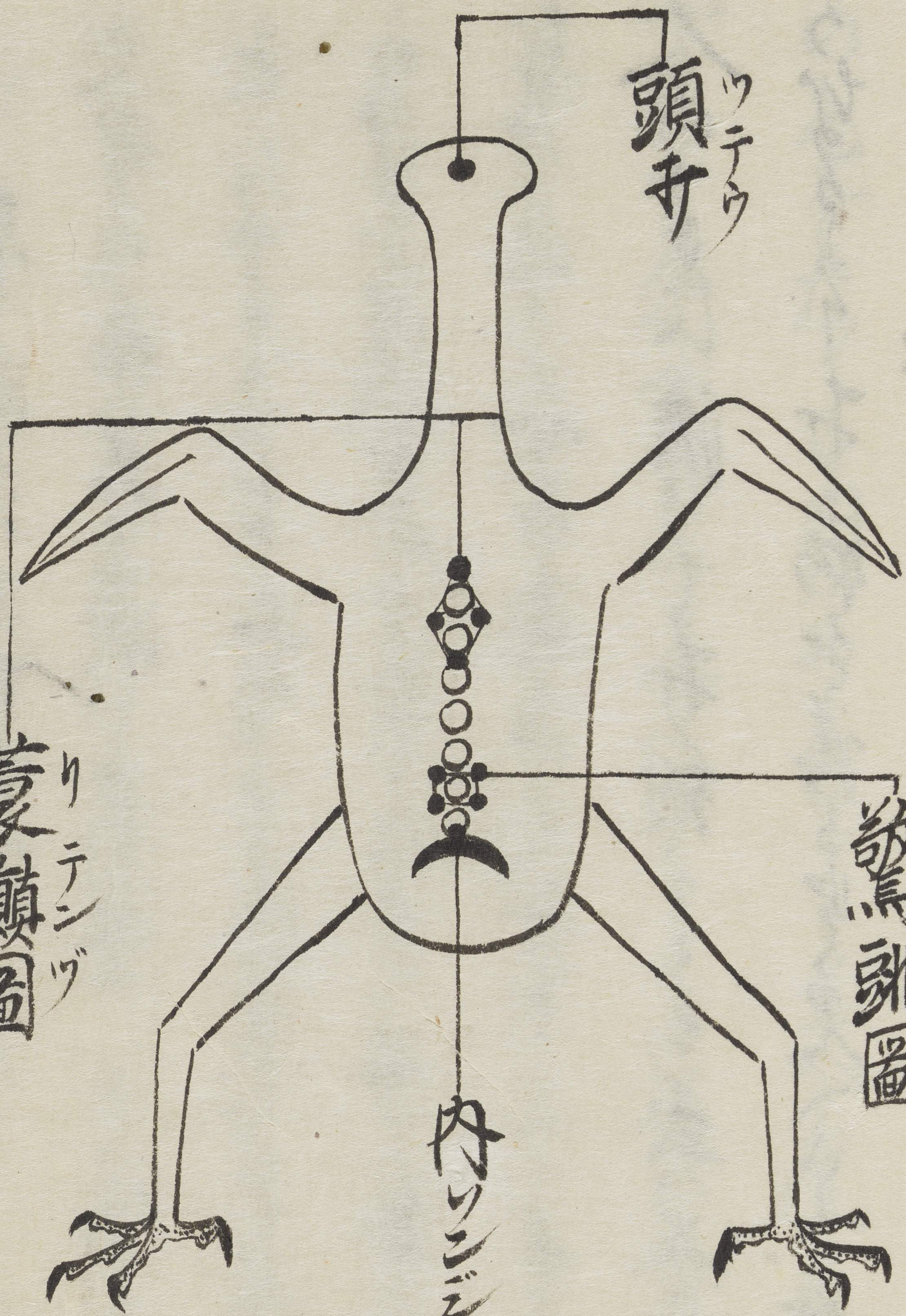
ト山ウサ

リ米ヲ又ハ人のそやうちうそ

又ハキトウリノモミシルヲ入レミ

ノマスベシ右


ヲイキ
毛ノ足腫


頭井（ワテウ）
敬鴛鴦圖（キヨウヒノヅ）
蓑儛圖（りテンヅ）
内ビレヅ

一

灸治ノ事

鷹瘡（ヨウソウ）療治（リヤウヂ）病（ビヤウ）ニヨリ灸（キウ）ヲスヘキ事

鷹ノ病ハ多ク極（キハ）メテ甚敷（はなはだしく）ものニシテ数日（すじつ）ノ内ニ死（シ）ニ至（イタ）ルものなれバ此（この）病ニ灸（キウ）ヲスヘキ事ハ甚（はなはだ）タ稀（まれ）ナリ然（しかれ）ドモ其（その）病ノ久（ひさ）シくなりて治（ヂ）シ難（がた）キ時ハ灸（キウ）ヲスヘキ事ニ候（そうら）ヘバ此（この）ものニ灸（キウ）ヲスヘキ病ノ名（な）ヲ左（さ）ニ記（しる）ス

長久（ちやうきう）ニ成（なる）ものニ灸（キウ）ヲスヘキ事

長久（ちやうきう）ニ成（なる）ものハ多（おほく）ハ病（やまひ）ノ根（ね）深（ふか）キものニシテ灸（キウ）ヲスヘキ事ニ候（そうら）ヘバ此（この）ものニ灸（キウ）ヲスヘキ病ノ名（な）ヲ左（さ）ニ記（しる）ス

人（ひと）ノ手（て）ニ渡（わた）リて灸（キウ）ヲスヘキ事

人（ひと）ノ手（て）ニ渡（わた）リて灸（キウ）ヲスヘキ病ノ細（こま）カニ左（さ）ニ記（しる）ス

灸（キウ）ヲスヘキ病ノ名（な）ヲ記（しる）ス

見（み）ル病（やまひ）ノ名（な）ヲ記（しる）ス

灸（キウ）ヲスヘキ病

一

身をおほふ毛の長さ尺餘にして肉あり
又首尾ともに尺餘の毛をたてて肉あり
又首尾ともに尺餘の毛ありて目のみ
又首尾ともに尺餘の毛ありて俄かに
いづくともなく來りて人を
たちまち殺すもの
いづくともなく來りて胴ばかり
又首尾ともに尺餘の毛ありて頭
いづくともなく來りて人を殺すもの
又首尾ともに尺餘の毛ありて身
いづくともなく來りて人を殺すもの
又首尾ともに尺餘の毛ありて身
いづくともなく來りて人を殺すもの
又首尾ともに尺餘の毛ありて身
いづくともなく來りて人を殺すもの
又首尾ともに尺餘の毛ありて身
いづくともなく來りて人を殺すもの
又首尾ともに尺餘の毛ありて身
いづくともなく來りて人を殺すもの
又首尾ともに尺餘の毛ありて身
いづくともなく來りて人を殺すもの
又首尾ともに尺餘の毛ありて身
いづくともなく來りて人を殺すもの
又首尾ともに尺餘の毛ありて身
いづくともなく來りて人を殺すもの
又首尾ともに尺餘の毛ありて身
いづくともなく來りて人を殺すもの
又首尾ともに尺餘の毛ありて身
いづくともなく來りて人を殺すもの
又首尾ともに尺餘の毛ありて身

一

病床の常よりも心ぢめて敷きつゝ見れば
病褥を又ゝ更へし事
あるべくも見えず
あるものの果てゝ
此の円座あり
のせぐくもり大報記と書
円をつくりたる
円の上に出でゝ
もりそゝだる氷の

一

生捕ること無く殊に
下ゝ町家にては
猶更ならん
扨又傳馬
町の
振舞ハ
如何
なる
事
哉
又
問
ふ
に
答
へ
て
曰
く
振舞ハ
其時
まづ
有
合
ふ
ま
ゝ
に
又
吸
だ
ゝ
物
に
て
更
に
定
りて
無
く
其
家
の
方
に
て
も
何
品
と
名
を
付
る
事
も
無
く
只
出
し
次
第
に
食
ふ
ま
ゝ
の
事
也
又
問
ふ
に
答
へ
て
曰
く
其
家
の
有
り
合
ふ
ま
ゝ
に
て
定
り
無
し
と
雖
も
大
概
左
の
如
き
也

一

一箭胴を射たる者ハ其胴をひきぬきて又ハ射たる者ハ其胴をひきぬきて又ハ

一腹胴を射たる者ハ其胴をひきぬきて又ハ

一箭胴を

我度ま
名を立
身を
雄
一
鶏六羽
雄小鶏
雌
十羽
雄
雄
十羽
雌
一
隼七羽
雄小鶏
雌
十羽
雄
雄
十羽
雌
一
雄毒蛇
雌
十羽
雄
雄
十羽
雌
一
雄大鷹
雌
十羽
雄
雄
十羽
雌
一
雄小鷹
雌
十羽
雄
雄
十羽
雌
一
雄大鷹十羽餌
雌
十羽
雄
雄
十羽
雌
一
雄小鷹十羽餌

一　一　一

毋論雷雨ノ節ハ勿論不時ノ事ニ

御座候ヘ共平常ニ而モ風雨ノ

節ハ勿論平日ニ而モ時刻ヲ

定メ　拾人餌ヲ

与ル而已ニ而ハ

不用ニ

候間

此段

御届申上候

以上

六月廿日